在シドニー総領事通信
第 68 回　「日豪関係の精神的故郷」を支える人たち

令和４年（2022 年）８月 11 日

カウラ日豪戦争墓地で成蹊・カウラ高校生徒代表と（2022 年８月５日）

８月５日のカウラ脱走 78 周年慰霊式典に出席してきました。カウラはシドニーから西に約 310ｋｍ、車で約４時間の距離にある小さな町です。第二次世界大戦中に約 1,100 名の日本人戦争捕虜がこの地に収容され、1944 年に集団脱走して日本人戦争捕虜 234 名、豪州人兵士５名の犠牲者が出ました。戦後、この地に日本人戦争墓地や日本庭園が設置され、日豪高校生の留学交流や日本文化行事も行われて、2001 年当時の駐豪大使はカウラを「日豪関係の精神的故郷（spiritual home of Japan-Australia relations）」と呼びました。

今回の総領事通信では、今回のカウラ出張について報告しながら、カウラで日豪交流を担う人たちの大切さについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。

日豪戦争墓地での献花（2022 年８月５日）

●日豪戦争墓地での献花

８月５日の朝、カウラ脱走 78 周年追悼式典が行われました。豪側からはウエスト市長、スミス副市長、マーシャル退役軍人会カウラ支部次長代行、ロールズ・カウラ脱走協会会長、グリフィス・カウラ日本庭園・文化センター理事長他、日本側からは山上駐豪大使、本官、八杉在豪大防衛駐在官他が参列、献花しました。

今回嬉しく思ったのは、成蹊高校からカウラ高校への交換留学生も参列、献花したことです。この交換留学事業はコロナで２年にわたり延期され、２年とも来られなかった成蹊高校の交換留学生は、今回３週間のみカウラを訪問・ホームステイのため来訪していました。本年度の交換留学生も、来訪が今月まで後ろ倒しとなり、来年３月までの留学を始めたところでした。２人とも、カウラ高校代表の生徒とともに参列、献花し、次世代の日豪交流の担い手としての役割を早速果たしていました。

山上駐豪大使とウエスト・カウラ市長による安倍元総理の桜植樹への献花
（2022 年８月５日）

●安倍元総理の桜植樹への献花

日豪戦争墓地での式典後、山上駐豪大使とウエスト・カウラ市長は、戦争捕虜収容所跡地近くの安倍元総理の桜植樹で献花を行い、私も臨席しました。

この桜は、2014 年に安倍総理（当時）が豪州を訪問してキャンベラでの議会演説などを行った際、カウラまでは自ら来られなかったものの植樹を指示し、銘板に安倍元総理の名前が刻まれたものです。

日本のメディア、豪州のメディアともこの献花を取材し、山上大使、ウエスト市長がインタビューに応じていました。このようなメディアの関心の高さは、安倍元総理の日豪関係への貢献の大きさを反映していると感じました。

カウラ日本庭園・文化センター（2022 年８月５日）

●カウラ日本庭園・文化センターでのモーニングティー

引き続き、カウラ日本庭園・文化センターで、モーニングティーが開催されました。式典に出席した多くの方々と親しく懇談するとともに、ウエスト市長、山上大使、ロールズ・カウラ脱走協会会長からの挨拶がありました。

２年延期の後に今回３週間カウラを訪問中の成蹊高校の生徒からも話を伺いました。交換留学できなかったのは残念だが、３週間フルにカウラに滞在して多くを学びたい、と目を輝かせて語っていました。

モーニングティーの後に、先日着任して初めてカウラに来た立野副領事と一緒に日本庭園を回りました。好天に恵まれ、いつもながらの素晴らしい景色で、この庭園を最初に造園した人や、その後長年にわたり手入れをしてきた人の温かい気持ちを感じることができました。

カウラ脱走の絵本を出版したルーシー・オースティンさんと
（2022 年８月４日）

●カウラ脱走の絵本

今回の出張では、折角の機会なので、カウラ市側と相談し、カウラ脱走協会や戦争捕虜収容所管理所、カウラ日本庭園の管理人や庭師など、各種の式典・行事の実施を担い、関連施設の管理を担当している方々と前日にお会いして、感謝の気持ちを伝えました。本件をはじめ毎年の式典・行事調整を担当しているカウラ脱走協会のローレンス・ライアン氏にも感謝申し上げます。

カウラ脱走協会広報担当官のルーシー・オースティンさんからは、昨年 12 月に出版したカウラ脱走の絵本をいただきました。カウラに住み、自分の子供たちにカウラ脱走について説明しようと思った時に、良い教材がなかったので、助成金を申請・獲得して自分で作成・出版したとのことです。今も新たな取組が進んでいることに、大変感銘を受けました。

この絵本は「ジャックのカウラ訪問」という表題で、おじいさんが孫に対してカウラ脱走について語ります。「戦争でお互いに戦った両国が、カウラで示さ

れた優しさ（日豪戦争墓地の設置、桜の植樹や日本庭園の開設）で、友好国になったんだ。」と、カウラが日豪和解に果たした役割を説明しています。

ロズネイ有機ワインのブドウ畑（2022 年８月５日）

●カウラ地域のワイナリー

カウラ地域はワインの産地としても有名です。一連の行事に出席した後の帰路に、「ロズネイ有機ワイン（Rosnay Organic Wines）」というカウラ北方のカノウィンドラにあるワイナリーを訪問しました。以前カウラを訪問した際に、地元のワインとしてこのワイナリーのスパークリングワインを紹介され、２年間にわたり公邸で提供しながらカウラと日本のつながりについて説明してきたので、お礼を伝えるとともにお話を伺いたかったからです。

サム・ステイサム社長にお会いし、ブドウ畑や工場を案内いただきました。農場ではいちじくやオリーブも作り、太陽光パネルと蓄電池も整備して電力を節約し、瓶詰も工場内での手作業で、ラベルの絵は親や子どもが書いた絵を使うなど、手作りの工夫を楽しみながら、すばらしい製品を作っていました。

カウラでの歴史を学びながら、このような豪州の地方の生活や産業も日本に紹介すれば、日豪の相互理解が深まるように感じました。

カウラ高校 1988-89 年度交換留学生のアリソン・スター氏（向かって左）、
スミス・カウラ市副市長（向かって右）と私（2022 年８月５日）

●「日豪関係の精神的故郷」を支える人たち

カウラを訪問したのは４回目になります。最初は 2020 年６月のコロナ第一波直後。次は９月に桜祭りは中止となったもののシドニー日本人会の石川会長と訪問・献花。３回目は 2022 年５月の紅葉祭りの立ち上げ時。そして今回初めて８月５日のカウラ脱走慰霊式典に出席することができました。

これまでも、戦争捕虜収容所跡地や豪日戦争墓地、そして日本庭園や桜の植樹なども見て、長年にわたる歴史を一昨年７月に総領事通信「日豪の架け橋としてのカウラ」にとりまとめました。しかし、今回のカウラ訪問で更に多くの関係者と初めてお会いして、これらの「モノ」を支えるのは「ヒト」であるとの思いを強くしました。

日豪戦争墓地で、私と一緒に献花したスミス副市長は、カウラ高校が成蹊高校と1970 年に交換留学を初めてから２代目の日本語教師で、長年にわたり成蹊カウラ交換留学事業の実施を担ってきたとのことです。今回の式典では、スミス副市長から日本語を学び、1988-89 年度に成蹊高校に交換留学したアリソン・スター氏、そして先日来訪したばかりの成蹊高校の生徒も献花しました。スミス副市長は、来年カウラ市代表団の一員として訪日し、成蹊高校を訪問予定の由です。

戦中・戦後から今日に至るまでの日豪の歴史を記憶し、それを愛情あふれる交流の物語に創り上げているのは、各種の式典・行事を実施し、交流を担っているカウラの人たちの温かい気持ちによるものだと感じました。彼らに心からの感謝を伝えるとともに、その活動を後押ししていくことが大切です。この思いを、私の同僚や後任者にも引き継ぎたいと思います。

在シドニー日本国総領事　紀谷昌彦